

◆千年以上に写され、
今もなお輝く聖書写本

西洋では紙が使われるまで、水草が原料のパピルス紙や、羊や仔牛などの獣皮を加工した羊皮紙に文字などを記した。

湿気に弱く脆いパピルス紙に替わり、折り曲げても破れず両面に書ける羊皮紙が次第に普及し、西洋に紙が伝わった十二世紀以後も、十五世紀頃まで羊皮紙は重宝された。

本書は十一世紀後半に、羊皮紙二百六十一枚に書かれたギリシア語の聖書写本である。トルコの首都で制作され、その後トルコ港町ガリポリの聖ディミトリオス修道院が所蔵していた。

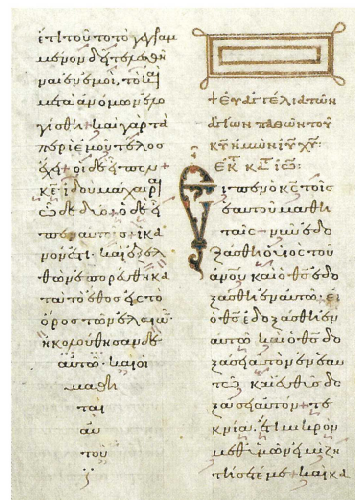
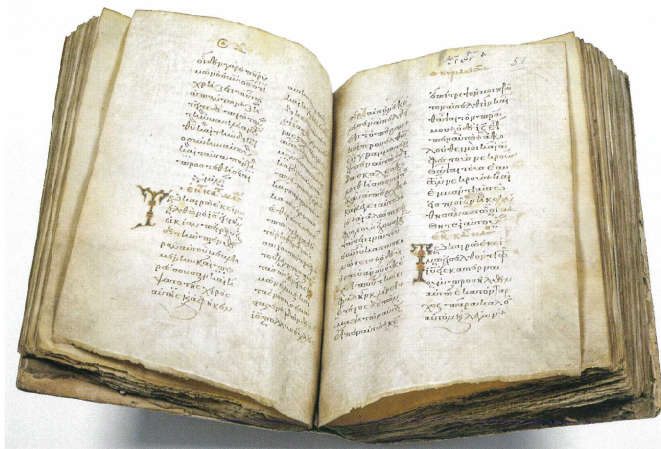
十一世紀頃までは、修道院で聖書を書き写し、十二世紀になると、書写を仕事とする写字生が現れた。彼らは、膨大な時間と労力をかけて、聖書以外にも、歴史書や物語などを写し取ったが、中世写本の中で、最も多く現存するのが聖書である。

「聖句集」とは、ミサのときに朗読される聖書箇所のみを抜き出して編纂した書物のことを言う。本書は、イエス・キリストの生涯と言行を記した、新約聖書の「福音書」より抜き書きしており、教会暦の流れに沿って、日曜日や特別な祭日の章句を中心にまとめられている。

中世写本が文字のみで構成されるのは稀で、多くは装飾が施されている。本書には、金や多彩色で飾った帯状ヘッドピース（掲出下図右上部）や金、赤、青等の色で彩飾された頭文字が随所にみられる。元は文章の区切りを表す装飾が、ときに持ち主の権威や趣向と結びついて、西洋美術を代表するほど華麗な装飾写本も存在する。

脆弱なパピルス紙に書かれたものはほとんど残存していないが、丈夫な羊皮紙に書かれた書物の多くは、千年近く経った今もなお当時の輝きを保ちながら、私たちを魅了している。

（天理図書館 吉村まり子）



▶【せいくしゅう】

1冊
コンスタンティノポリス
11世紀写
縦35cm 横25.5cm



＜天理図書館のお知らせ＞

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○2月の休館日：2日・9日・12日～21日・23日・28日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）
※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。